

【4】横浜市立釜利谷小学校 令和元年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「たのしい わたしの学校」 ひびきあい ささえあい たかめあい	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習の中で他者と共同・協働しながら学習を進めるためのコミュニケーション能力 ○めあてに向かい主体的に学習に取り組むための情報収集・活用能力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
<ul style="list-style-type: none"> ○「チーム釜利谷」として全職員で子ども一人ひとりを大切に、信頼される学校にします。 ・教師の授業力を高め、分かる授業を実践し、子どもどうしの学び合いを大切にしながら学力を向上させます。特に中高学年では一部教科担任制を導入し、様々な視点で子どもの学びをつくります。 ・自分を大切に、友達を大切に、人とのかかわりを大切にしながら互いのよさを認め合える子を育てます。 ・健康な心身をつくるための生活習慣を形成し、進んで体力向上を目指そうとする態度を育てます。 ・家庭・地域と連携を図り、豊かな体験を通して規範意識や感謝の気持ちを育てます。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

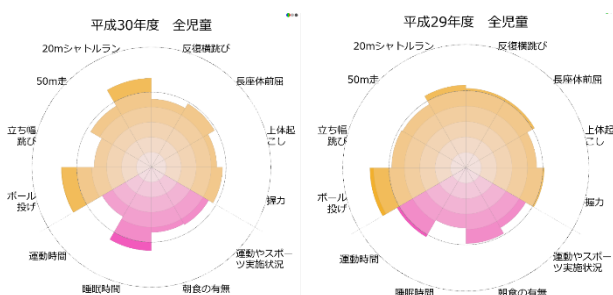
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> ① 体育学習では慣れの動きや主運動を重視し、運動量の確保に努める。 ② 特色である「裏山」の開放や各種体育的集会を中心に運動の日常化を図る。 ③ 給食の残さを減らすことや栄養士による教室訪問等を通して、体づくりのための、食に関する意識を高める。
担当	体育部

2 体育・健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・市の平均に比べ、朝食の摂取率が低い。毎日食べる子どもの割合は、29年度85%、30年度83%と年々減っている。また睡眠時間については、市の平均を上回っている。
- ・運動時間、運動・スポーツの実施状況については共に市の平均を下回っている。運動を行っている子どもの割合は市とあまり変わりはないが、運動をしないと答えた子どもの割合が市に比べて多くいる。
- ・1校1実践運動では、運動に積極的に、楽しく関わろうとする子どもが増えている。

(2) 体力の概要と要因の分析（全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用）



29年度は市の平均と似たような値がでているが30年度は市の平均を下回っている項目が多くみられる。20mシャトルランやボール投げの値は過去2年間を見ても安定しており、1校1実践運動の取り組みや休み時間等での遊びが影響していると考えられる。立ち幅跳び、反復横跳びには課題が見られる。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科の取組》

進んで体力向上を目指そうとする態度、健康的な心身のために自身の課題を解決する力を育む

- ・慣れの動きや主運動を通じて、子どもが運動の特性に触れた楽しさを実感し、仲間との対話による課題解決や学習資料の活用による主体的に取り組む体育科の授業展開の工夫
- ・運動の関連性を意識し、各単元や6年間の学習のつながりを意識した年間計画の工夫
- ・養護教諭や栄養職員による、子どもたちの生活や他教科等の学習との関連を図った取組の工夫

《他教科での取組》

心身の健康な生活を実践する態度を育む

- ・衣食住と健康との関連を図る家庭科の授業づくり
- ・「誠実に、明るい心で生活しようとする」態度の育成を目指した道徳の授業づくり

特別活動・総合的な学習の時間

規則正しい生活をしようとする態度、進んで楽しく運動しようとする態度を育む

- ・体育科で培った資質能力を基礎とし、個人競技や団体競技、集団演技を通して運動の楽しさを味わい、自己の体力に関心をもつことができる運動会づくり
- ・体を動かすことの心地よさを味わったり、友達とのかかわりを楽しんだりすることができるようにするための体育委員会、たてわり委員会による集会
- ・学校医、養護教諭、栄養職員による歯磨きや給食指導などによる自分の生活の状況を見つめ、学んだことを実践できる力を育む特別活動の授業づくり

課外活動

- ・学校保健委員会では、よりよい生活習慣が身に付くように児童が主体的に活動を進め、実践化を図る。
- ・にこにこ人権会議を中心とした取組を通して、互いのよさを認め合い、共に高め合おうとする姿勢を育てる。
- ・健全な食生活を営む態度を育むために、給食の時間を活用し、栄養など食に関する指導を行う。

令和元年度 釜利谷小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 「マラソン週間」「鬼ごっこ週間」「長縄タイム」「なかよしタイム」

《ねらい》 子ども主体による体育・健康に関する活動を取り入れることで、全校児童が運動の楽しさを味わい、積極的に運動に取り組もうとする態度を育成する。

《内容》

- ・運動機会を確保する取組、健康について考える取組を、児童が主体となる委員会で企画・運営する。
- ・体育委員会 「マラソン週間」「鬼ごっこ週間」
- ・たてわり委員会 「長縄タイム」「なかよしタイム」（たてわりグループによる活動）
- ・保健委員会 学校保健委員会による生活習慣を見直す取組

- 指 標：
- ①生活実態調査「運動やスポーツの実施状況」「睡眠時間」「朝食摂取状況」「1日の運動・スポーツの実施時間」
 - ②市学力・学習状況調査の意識調査と子どもの活動の状況との分析